

令和6年度 義務年限内の自治医科大学卒業医師の要望状況【内科系総合医】

市町村	医療機関名	R 5		R 6	要望理由	派遣方針 (優先順位)	常勤医数 (10月1日時点)	
		要望 ①	派遣	要望 ②			R4	R5
安来市	安来市立病院 (148床)	2	0	2	<p>(1) 現状について</p> <p>安来市立病院は、令和5年4月現在、許可病床数148床（一般102床（内地域包括ケア48床）、療養46床）ですが、看護師不足により、届出病床数は114床（一般76床（内地域包括ケア43床）、療養38床）です。延べ入院患者数は約38,000人、延べ外来患者数は約52,000人で、患者の8割近くは70歳以上の高齢者となっています。</p> <p>これまで、救急告示病院として二次救急を主体とした急性期医療と、安来市南部の中山間地域を中心とした地域医療の提供や無医地区（広瀬町奥田原地区、広瀬町西谷地区）に対する巡回診療、また、介護施設へのサポートなどを行いながら、地域住民に必要な医療サービスを提供してきました。</p> <p>近年、在宅医療を担う役割が期待される中、令和3年度に念願の総合内科医1名を迎え、訪問診療を開始し（R4 月平均41件）、訪問看護、訪問リハビリ、訪問栄養指導と広げてきたところです。令和5年度には総合内科が2名体制となり、また、地域連携室内に新たに在宅支援係を設置し、多職種連携による診療・看護・リハビリ等の提供を進め、安来市はもとより、松江市東部の患者宅への訪問にも対応ができるようになったところです。しかしながら、在宅医療に対する地域ニーズは高く、安定的に提供できるように引き続き体制強化を図る必要があると考えています。</p> <p>また、高齢化や後継者不足の問題を抱える地域の開業医からは、当院からのサポートを期待するご意見をいただいております。安来市医師会が実施している日曜・祝日輪番当番制による初期救急医療への対応を令和5年度から開始したところです。</p> <p>当院では、現在、令和6年度からの公立病院経営強化プランの策定作業を進めています。人口減少と少子高齢化に伴う医療介護需要予測、患者の疾病構造等の他、松江圏域における当院の役割や当院の内部環境（医師・看護師等の医療従事者の状況、救急搬送対応や在宅医療の状況等）などから、今後、当院において必要となる医療機能について検討を行ってきました。</p> <p>安来市南部の中山間地域の高齢化率は約43%ですが、すでに6割近い地区も多くなってきています。さらに、高齢者のみの世帯も目立つようになってきました。こうした事からも、今後は、高齢患者の慢性的・複合的疾患に加え、生活環境などの社会的要因も含めて総合的にケアをしていくことが重要になります。また、単独の病院（当院のみ）で医療を完結することは難しく、地域医療の継続性を図るためには、「圏域地域」という視点で医療をとらえ、広域的視点に立った「役割分担と連携」によって、医療提供体制を確保していく必要があります。さらに、地域医療を支えていただいている開業医等の現状から、当院のような中小規模の病院が「かかりつけ医」の役割も担い、中山間地域の医療・介護を支えていく必要があります。</p> <p>現在、当院では、「総合的な診療を中心に、必要な急性期の機能は担いつつ、回復期、在宅医療の強化」を進めていくことを軸に、急性期・回復期・慢性期の入院機能や外来のあり方等について見直しを進めています。</p>	Ⅱ	11	10

市町村	医療機関名	R 5		R 6	要望理由	派遣方針 (優先順位)	常勤医数 (10月1日時点)	
		要望 ①	派遣	要望 ②			R4	R5
安来市	安来市立病院 (148床)				<p>(2) 内科系総合医（常勤）の必要性  地域に必要な医療サービスを提供し続けていくためには、医師・看護師等の確保が必須であり、当院においては喫緊の課題となっています。  常勤医師数については、平成30年度の15名から年々減少し、令和5年度は10名（内科4名、整形外科1名、外科2名、小児科1名、婦人科1名、麻酔科1名）となっています。（令和2年度に整形外科医2名減、令和4年度に循環器内科、脳神経内科が各1名減で不在が続く、令和5年度に外科医1名減）  医師の確保に向けて、大学病院への訪問、民間紹介会社の活用、県の赤ひげバンクや当院HP等による医師募集を行っていますが、現時点では、採用の見通しがついていません。  当院では、限られた医師で診療体制を維持していくために、救急患者の受入態勢の見直しやタスクシフトなどに取り組んでいるところですが、どうしても内科医師に大きな負荷がかかってしまう傾向にあります。内科医は、当院の入院患者の7割、外来患者の6割を担当し、かつ、救急外来、在宅医療など幅広く、非常に大きなウエイトを占めています。しかし、4名の内科医の内1名は大学病院からの期限付であり令和5年度末をもって終了する予定です。常勤医師の継続をお願いしていますが、現時点での見込みは立っていません。地域のニーズに応えるためにも、内科医師の確保は最重要課題となっています。  当院が、地域医療の拠点病院として、プライマリケアを中心に据え、幅広く患者に対応し、診療から入院、そして在宅復帰へ、さらにその後の在宅医療を支えていくためには、内科系総合医が必須であり、派遣を強く要望するものです。</p>			
安来市	安来第一病院 (359床)	2	0	2	<p>当院は、安来地域の不足医療を解消するため、内科、精神科をはじめ19診療科を標榜しています。病床は、一般科4病棟198床（地域包括ケア病棟、回復期リハ病棟、療養病棟）、精神科3病棟161床の計359床です。  救急告示病院として鳥大病院救急科から医師の派遣を受けるなど受け入れ体制を強化しております。法人内に、老健をはじめ介護保険事業所、障がい福祉サービス事業所を展開し、「安心して暮らせる地域社会の実現に貢献する」という方針のもと地域の皆様に医療・介護・福祉サービスを提供しています。地域密着型大規模多機能型施設群であり、地域包括ケア・コンパクトシティ ふれあいタウンやすぎ とし、安来第一病院はその中心として、急性期医療から慢性期医療、一般科医療だけでなく精神科医療（外来から入院まで）も展開しております。高度急性期、急性期治療は安来市外の医療機関で受診される方が多く、松江市、鳥取西部の医療機関との連携強化に努めるとともに、へき地である安来市内の医療提供体制を守るべく地域密着型多機能病院として体制強化に努めています。</p> <p>&lt;地域医療拠点病院として&gt;  訪問診療による安来地域の在宅におけるがん緩和ケア等を提供しています。患者、施設入所者への訪問診療、往診の依頼はありますが、担当医師の病欠等により、十分対応しきれていない状況です。  訪問診療、往診件数 令和3年度 485件  令和4年度 369件  令和5年度9月迄 123件  遠隔医療等の各種診療支援については、令和4年度 83件、令和5年度(9月迄) 34件のMRI撮影を実施しています。</p>	II	20	18

市町村	医療機関名	R 5		R 6	要望理由	派遣方針 (優先順位)	常勤医数 (10月1日時点)																																																																																																																																												
		要望 ①	派遣	要望 ②			R4	R5																																																																																																																																											
安来市	安来第一病院 (359床)	前ページからの続き			<p>&lt;在宅療養後方支援病院として&gt;  「在宅療養後方支援病院」及び「地域包括ケア病棟」の施設基準を取得しており、在宅医療を提供する地域の医療機関と連携し、緊急時の受診、入院に速やかに対応できるよう努めています。救急告示病院として救急の受入れ、介護保険事業所と連携し、医療介護の複合ニーズへの対応を行っております。また診療所、急性期病院等から要請を受け、連携して在宅医療（往診・訪問診療）を行うとともに、訪問看護、訪問リハを実施しています。</p> <p>&lt;救急告示病院として&gt;  当院は令和2年7月より救急告示病院の指定を受けております。地域住民の急変等急性期治療の役割が果たせるよう鳥大病院救急科より週4日救急医の派遣を受けております。救急搬送受入れ件数は増加しています。70歳以上の搬送が67%を占めております。休日夜間の受診件数も増加しております。  現在、非常勤医の協力のもと救急対応を行っていますが、高齢者の緊急対応等24時間体制での受入れ、入院対応強化のため、常勤の救急担当医を求めています。</p> <p>救急搬送件数（単位 件）</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th></th> <th>4月</th> <th>5月</th> <th>6月</th> <th>7月</th> <th>8月</th> <th>9月</th> <th>10月</th> <th>11月</th> <th>12月</th> <th>1月</th> <th>2月</th> <th>3月</th> <th>計</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>令和2年</td> <td>10</td> <td>9</td> <td>15</td> <td>12</td> <td>25</td> <td>16</td> <td>9</td> <td>20</td> <td>34</td> <td>34</td> <td>26</td> <td>26</td> <td>236</td> </tr> <tr> <td>令和3年</td> <td>24</td> <td>30</td> <td>17</td> <td>35</td> <td>31</td> <td>27</td> <td>27</td> <td>33</td> <td>33</td> <td>27</td> <td>19</td> <td>28</td> <td>331</td> </tr> <tr> <td>令和4年</td> <td>40</td> <td>46</td> <td>28</td> <td>6</td> <td>38</td> <td>35</td> <td>29</td> <td>39</td> <td>34</td> <td>29</td> <td>17</td> <td>30</td> <td>371</td> </tr> <tr> <td>令和5年</td> <td>24</td> <td>35</td> <td>32</td> <td>49</td> <td>51</td> <td>22</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td>191</td> </tr> </tbody> </table> <p>時間外受診者数（単位 件）</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th></th> <th>4月</th> <th>5月</th> <th>6月</th> <th>7月</th> <th>8月</th> <th>9月</th> <th>10月</th> <th>11月</th> <th>12月</th> <th>1月</th> <th>2月</th> <th>3月</th> <th>計</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>令和2年</td> <td>12</td> <td>13</td> <td>22</td> <td>18</td> <td>37</td> <td>26</td> <td>12</td> <td>32</td> <td>48</td> <td>56</td> <td>36</td> <td>44</td> <td>356</td> </tr> <tr> <td>令和3年</td> <td>41</td> <td>49</td> <td>52</td> <td>68</td> <td>78</td> <td>46</td> <td>49</td> <td>53</td> <td>64</td> <td>66</td> <td>60</td> <td>56</td> <td>682</td> </tr> <tr> <td>令和4年</td> <td>54</td> <td>50</td> <td>48</td> <td>63</td> <td>89</td> <td>50</td> <td>45</td> <td>54</td> <td>101</td> <td>78</td> <td>32</td> <td>45</td> <td>709</td> </tr> <tr> <td>令和5年</td> <td>40</td> <td>55</td> <td>45</td> <td>63</td> <td>90</td> <td>50</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td>343</td> </tr> </tbody> </table>		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計	令和2年	10	9	15	12	25	16	9	20	34	34	26	26	236	令和3年	24	30	17	35	31	27	27	33	33	27	19	28	331	令和4年	40	46	28	6	38	35	29	39	34	29	17	30	371	令和5年	24	35	32	49	51	22							191		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計	令和2年	12	13	22	18	37	26	12	32	48	56	36	44	356	令和3年	41	49	52	68	78	46	49	53	64	66	60	56	682	令和4年	54	50	48	63	89	50	45	54	101	78	32	45	709	令和5年	40	55	45	63	90	50							343		
			4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計																																																																																																																																				
令和2年	10	9	15	12	25	16	9	20	34	34	26	26	236																																																																																																																																						
令和3年	24	30	17	35	31	27	27	33	33	27	19	28	331																																																																																																																																						
令和4年	40	46	28	6	38	35	29	39	34	29	17	30	371																																																																																																																																						
令和5年	24	35	32	49	51	22							191																																																																																																																																						
	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計																																																																																																																																						
令和2年	12	13	22	18	37	26	12	32	48	56	36	44	356																																																																																																																																						
令和3年	41	49	52	68	78	46	49	53	64	66	60	56	682																																																																																																																																						
令和4年	54	50	48	63	89	50	45	54	101	78	32	45	709																																																																																																																																						
令和5年	40	55	45	63	90	50							343																																																																																																																																						

市町村	医療機関名	R 5		R 6	要望理由	派遣方針 (優先順位)	常勤医数 (10月1日時点)																																						
		要望 ①	派遣	要望 ②			R4	R5																																					
安来市	安来第一病院 (359床)	前ページからの続き			<p>&lt;急性期治療後の患者様の早期受入れについて&gt;  安来第一病院は、島根県地域医療構想において「他区域に入院していた患者が早期に安来地域に復帰すること」を目的に40床の増床が認められました。一般科平均入院患者数については、令和4年度新型コロナウイルス感染症により、若干減少しておりますが、今年度は増加しております。(精神科病棟は地域移行を推進し、病床数を圧縮)。急性期病院からの転入院も増加傾向にあり、急性期病院等への訪問や連携パスや連携だよりを通じて連携強化しているところです。</p> <p>平均入院患者数(単位 人) *令和5年度は4月～9月</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th></th> <th>令和元年度</th> <th>令和2年度</th> <th>令和3年度</th> <th>令和4年度</th> <th>令和5年度</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>一般科病棟</td> <td>136.1</td> <td>150.4</td> <td>165.7</td> <td>160.9</td> <td>163.8</td> </tr> <tr> <td>精神科病棟</td> <td>174.4</td> <td>168.8</td> <td>162.2</td> <td>149.7</td> <td>135.2</td> </tr> <tr> <td>計</td> <td>310.5</td> <td>319.2</td> <td>327.9</td> <td>310.6</td> <td>299</td> </tr> </tbody> </table> <p>急性期病院等からの一般科転入院患者数(単位 人) *令和5年度は4月～9月</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th></th> <th>平成30年度</th> <th>令和元年度</th> <th>令和2年度</th> <th>令和3年度</th> <th>令和4年度</th> <th>令和5年度</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>一般科</td> <td>263</td> <td>351</td> <td>324</td> <td>361</td> <td>341</td> <td>174</td> </tr> </tbody> </table> <p>&lt;感染症対応&gt;  新型コロナウイルス感染症への対応として、発熱外来、入院受入れを行っています。感染拡大期においては、1日40人を超える発熱患者様の診療を行いました。また、入院についても外来からの入院を令和4年度67名、令和5年度(9月現在)29名受入れを行っています。</p> <p>&lt;リハビリテーション体制の強化&gt;  治療とともにリハビリテーションを提供しています。法人内にPT、OT、STを127名擁しています。最近では、心大血管リハビリテーションの届出を行いました。外来はもとより入院直後からのリハビリを実施しています。治療とともにADLの改善を目指し退院後の生活に合わせた目標設定でリハビリを提供します。365日のリハビリを実施しています。</p>		令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	一般科病棟	136.1	150.4	165.7	160.9	163.8	精神科病棟	174.4	168.8	162.2	149.7	135.2	計	310.5	319.2	327.9	310.6	299		平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	一般科	263	351	324	361	341	174		
	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度																																								
一般科病棟	136.1	150.4	165.7	160.9	163.8																																								
精神科病棟	174.4	168.8	162.2	149.7	135.2																																								
計	310.5	319.2	327.9	310.6	299																																								
	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度																																							
一般科	263	351	324	361	341	174																																							

市町村	医療機関名	R 5		R 6	要望理由	派遣方針 (優先順位)	常勤医数 (10月1日時点)																																														
		要望 ①	派遣	要望 ②			R4	R5																																													
安来市	安来第一病院 (359床)				<p>前ページからの続き</p> <p>&lt;認知症疾患医療センター&gt;  島根県から指定を受け、認知症の診断や初期対応、相談等を行っています。  最近、精神症状のみならず身体疾患の治療を必要とする患者も増加しており、精神科医と一般科の医師が共同し治療にあたっております。</p> <p>認知症に関する相談件数および鑑別診断件数（単位 人） *令和5年度は4月～9月</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th></th> <th>令和元年度</th> <th>令和2年度</th> <th>令和3年度</th> <th>令和4年度</th> <th>令和5年度</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>相談件数</td> <td>348</td> <td>401</td> <td>507</td> <td>565</td> <td>316</td> </tr> <tr> <td>鑑別診断件数</td> <td>166</td> <td>176</td> <td>211</td> <td>241</td> <td>126</td> </tr> </tbody> </table> <p>&lt;常勤医の高齢化&gt;  急性期治療後の患者様の早期受け入れ、救急搬送等の地域の緊急入院の患者様の受け入れを強化しなければならない当院ではありますが、近年、医師の高齢化が顕著となっております。高齢医師の勤務日数・勤務時間の減少、病欠等が増えています（常勤医の減少につながっています）。現在、常勤医23名中60歳以上が14名と60%です。  大学病院からの非常勤医の派遣は増加していますが、今後、益々重要視される在宅医療を担う診療所をバックアップしつつ、病院として地域住民に医療を安定して提供するためには、常勤の内科系総合医の確保が必要です。</p> <p>常勤医の年齢構成（単位 名）</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th></th> <th>40歳代</th> <th>50歳代</th> <th>60歳代</th> <th>70歳代</th> <th>80歳代</th> <th>計</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>一般科</td> <td>1</td> <td>6</td> <td>4</td> <td>2</td> <td>2</td> <td>15</td> </tr> <tr> <td>精神科</td> <td>1</td> <td>1</td> <td>3</td> <td>2</td> <td>1</td> <td>8</td> </tr> <tr> <td>計</td> <td>2</td> <td>7</td> <td>7</td> <td>4</td> <td>3</td> <td>23</td> </tr> </tbody> </table> <p>&lt;まとめ&gt;  安来第一病院は、安来市の地域医療を守るため、上記の内容を実施しています。  内科系総合医の確保により、  ①訪問診療の対応増加、②救急搬送受け入れの強化、③高齢者等在宅療養患者の緊急時の受け入れ等プライマリケアへの対応、④急性期治療後の患者様の早期受け入れの促進、⑤新興感染症への対応強化などが推進できると考えます。  住民への医療提供を継続するために、常勤の内科系総合医の派遣を強く要望いたします。  ご検討いただきますようお願いいたします。</p>		令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	相談件数	348	401	507	565	316	鑑別診断件数	166	176	211	241	126		40歳代	50歳代	60歳代	70歳代	80歳代	計	一般科	1	6	4	2	2	15	精神科	1	1	3	2	1	8	計	2	7	7	4	3	23		
	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度																																																
相談件数	348	401	507	565	316																																																
鑑別診断件数	166	176	211	241	126																																																
	40歳代	50歳代	60歳代	70歳代	80歳代	計																																															
一般科	1	6	4	2	2	15																																															
精神科	1	1	3	2	1	8																																															
計	2	7	7	4	3	23																																															

市町村	医療機関名	R 5		R 6	要望理由	派遣方針 (優先順位)	常勤医数 (10月1日時点)	
		要望 ①	派遣	要望 ②			R4	R5
雲南市	平成記念病院 (115床)	1	0	-	-	Ⅱ	5	4
奥出雲町	町立 奥出雲病院 (98床)	2	2	2	<p>当院の診療圏域の対象人口は、本町と近隣を含めた1万5千人余です。令和4年度の状況としては、内科外来患者数12,751人(1日平均52.4人)、内科入院患者数16,352人(1日平均44.8名)であり、内科系医師には大きな負担をかけている状態が続いている現状でありました。</p> <p>令和5年度において、常勤医師は9名、うち内科医師は1名であります。島根県から3名の内科系総合診療医を派遣いただき、医師の体制強化が図られたことにより、外来や入院の充実はもとより救急体制や宿日直の回数等も改善されており、他の常勤医師にとっても働きやすい環境が醸成されています。</p> <p>近年、当院が果たす役割も刻々と変化してきており、これに対応すべく令和3年4月からは訪問看護ステーションを病院で管理運営を行い、併せて「在宅診療センター」を設置し、医師が訪問診療に出かける体制を整備し、さらには地域包括ケアシステム構築にむけ取り組んでいます。</p> <p>また、今年度中途から横田地域の中枢医療機関から奥出雲町長へ医師の派遣要望がなされ、町長はこれを受諾し当院から週1回医師を派遣しております。</p> <p>このように、様々なサービスの質や量の提供確保、課題への適切な対応等を弾力的かつ効果的に進めていくためにも、令和5年度における県派遣内科系総合診療医3名による体制を引き続き令和6年度も同様に強く要望いたします。</p> <p>奥出雲町並びに町立奥出雲病院は、一つとなって町民が安心して暮らせる地域医療の発展に更に努めて参りますので、実情をご賢察いただき格別のご支援を賜りますようお願い申し上げます。</p>	Ⅰ	7	9

市町村	医療機関名	R 5		R 6	要望理由	派遣方針 (優先順位)	常勤医数 (10月1日時点)	
		要望 ①	派遣	要望 ②			R4	R5
飯南町	町立飯南病院 (48床)	2	1	2	<p>現在、常勤医師は内科医6名であり、うち島根県からの派遣医師は5名（うち義務年限内の医師1名）となっています。同じく本町が運営する飯南町立来島診療所については、平成28年4月から常勤医師が不在となり、当院の内科医がその都度出向いて診療を行っている状況です。その他、飯南町立志々出張診療所、飯南町立谷出張診療所についても同様の診療を行っています。</p> <p>令和4年度の患者のうち内科の患者数は、外来で年間19,466人（診療所を含む）と医科全体の67.0%、入院で年間10,167人と医科全体の92.9%を占めており、内科診療は当院の中心を為す重要な診療科目であることがわかります。また、総合医として1名の医師が外科外来を担っており、患者数はそれぞれ外来で3,552人、入院で773人となっています。その他、内科系総合医により、内視鏡を用いた検査、処置等が720件、超音波診断装置による検査、処置が577件となっており、これらについても欠くことのできない業務となっています。</p> <p>当院は、町内唯一の救急告示病院として、令和4年度には年間1,123人の時間外患者の受け入れ、189件の救急車を受け入れているほか、町内はもとより近隣の雲南市及び美郷町の一部からも患者を受け入れるなど、住民の安心・安全な暮らしにとって欠かせないものとなっています。</p> <p>町内には介護福祉関連施設が8ヶ所と多く、高齢者世帯も多いことから、入院機能の維持に加え、関連機関との連携強化を含めた在宅医療の支援も重要な取り組みの一つとなっています。</p> <p>今後も地域医療拠点病院としての役割を果たすとともに、地域包括ケアシステムの推進などより一層の取り組みを図っていくためにも、内科系総合医の増員は必要不可欠です。</p> <p>このような中、これまでともに本町の地域医療を担ってこられた町内唯一の開業医が令和元年末をもって閉院されたことにより、医科系では、当院が町内唯一の常勤医を配置する医療機関となり、より一層当院の担う役割が大きくなっています。</p> <p>働き方改革が求められる中、常勤医師の当直業務は、1人あたり月平均5回程度と非常に大きな負担となっている状況にあり、当直業務の負担軽減を含めた働きやすい勤務環境の整備に向けこれまで以上の取り組みが必要となります。</p> <p>新型コロナウイルス感染症については、感染症法上の位置付けが5類に移行されたものの、新たな変異株の出現による感染者数の増加が懸念されるとともに、ワクチン接種への対応など業務量の増加を考慮すると、常勤医師の確保が急務であります。</p> <p>当院では、常勤医師7名体制を目標とし、地域住民の求める医療の提供をするため、また、町内唯一の常勤医を置く医科系医療機関を維持するとともに、地域医療の拠点として、次の活動を確保していく必要があることから、内科系総合医の増員派遣を強く要望します。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・町内唯一の常勤医を置く医科系医療機関としての「かかりつけ医」機能</li> <li>・地域の医療機関（へき地診療所）との連携（診療支援・検査協力等）</li> <li>・在宅療養支援のための訪問診療（訪問看護ステーションとの連携）</li> <li>・本町が実施する人間ドック、特定健診、ワクチン接種などへの協力及び支援</li> <li>・介護福祉施設等の入所者の診療</li> <li>・学校医、産業医としての活動</li> <li>・初期臨床研修医を含めた医療従事者の地域研修、専門医の育成体制の充実</li> <li>・院外研修による地域医療の支援、広い診療能力の維持や新しいスキルの獲得</li> </ul>	I	6	6

市町村	医療機関名	R 5		R 6	要望理由	派遣方針 (優先順位)	常勤医数 (10月1日時点)	
		要望 ①	派遣	要望 ②			R4	R5
川本町	社会医療法人 仁寿会 加藤病院 (81床)	1	0	1	<p>はじめに)</p> <p>加藤病院を運営する社会医療法人仁寿会は、平成23年8月1日に島根県知事の認定を受け、社会医療法人の主たる所在地人口では全国最少（総務省・厚労省令和3年1月1日現在）の自治体に所在しています。私たちは、地域で包括的かつ統合された地域医療・介護サービス複合事業体として、慢性期多機能医療が枢要な僻地を含む中山間地域から海岸地域において地域包括ケアを展開しています。</p> <p>加藤病院は24時間365日在宅医療に対応する強化型在宅療養支援病院です。病床数81床のうち、地域包括ケア病棟55床は主にサブアキュート機能を担いながら、在宅復帰も支援するポストアキュート機能も十分に機能させています。また、26床の在宅復帰強化型の医療療養病棟は、長期療養機能に加え、地域包括ケアシステムにおける在宅療養支援機能も担っています。</p> <p>さて、島根県指定の地域医療支援拠点病院の重要な任務であるへき地保健医療対策においては、主要3事業のうち、へき地診療所である美郷町立君谷診療所への管理医師の派遣は、半世紀をゆうに超えました。平成26年度からは川本町の無医地区3地区への巡回診療(モバイルヘルスクリニック)を同主要事業のひとつとして月一回の頻度で開始して以来、令和元年8月からは大田圏域の温泉津町井田地区へ、更に令和4年5月からは、大田市温泉津町福波地区へ、令和5年9月からは大田市祖式町も開始し大田市では毎週一回を診療日としています。これら地域の状況を鑑みると、私たちは、引き続き在宅療養支援とともにへき地保健医療対策等大田・邑智二次医療圏域の課題解決への貢献も継続する必要があると信じています。</p> <p>また、主に介護保険制度を活用した在宅療養復帰・維持支援では、病院併設の在宅超強化型介護老人保健施設「仁寿苑」、医療近接型住宅「穂」、さらにサービス付き高齢者向け住宅「リハビリテーション&amp;ナーシングテラス 和かち逢う家」など多様な住み慣れた地域に「住まう」ための機能として提供しています。これらで療養あるいは生活する、医療を必要とされる方々への医療支援を行うのも加藤病院の重要な使命です。</p> <p>その他の公益に資する活動では、地域における医療及び介護の総合的な確保の促進に関する法律（平成元年法律第64号）第4条に基づき策定された島根県計画に基づき、地域の病床機能分化の促進及び質の高い在宅医療提供体制の確保を図るための事業として、邑智郡医師会から受託している地域医療連携コーディネーター配置事業を行いました。さらに、同補助事業のひとつである、しまね型医療提供体制構築事業においても地域歯科医師会との連携等、多分野多部門横断的な活動を展開しています。</p> <p>さて、同様に公益に資する活動でありながらも、公ではなしえない、民間医療機関等への医師派遣を通じた地域医療支援を行っていることも、社会医療法人仁寿会の大きな特色となっています。大田、浜田・江津各圏域の介護老人保健施設や特定施設等への医師派遣は、地域の医療のみならず、介護保険サービス提供体制の維持においても必要不可欠なものと各機関で認識されています。私たちも地域医療・介護提供体制の総合確保を支援する重要な役割として当活動を今後も継続してまいりたいと思います。自治体を超え、さらには大田・邑智二次医療圏にとどまらず、地域の社会資源を有機的かつ統合的に活用することによって、現在の社会医療・介護政策を地域ニーズに適合させつつ推進することは、社会医療法人に与えられた極めて希少かつ他に類をみない有用な機能であり、プライマリヘルスケアの成果としての地域住民の皆様への健康に貢献する所存です。</p> <p>公衆衛生・行政に関する活動として、地域の保育所・学校保健活動、産業保健活動への学校医、産業医の派遣を通じた貢献、島根県警川本署の嘱託医・健康管理医として検案等島根県警の警察活動や警察職員の健康管理にも貢献しています。また、新型コロナウイルス感染症の対応としては、川本町全町民のワクチン接種、近隣町の介護施設群のワクチン接種や感染対策指導からPCR検査体制の構築までを行っています。インフルエンザワクチン接種も職域接種等地域に出向き行っています。</p> <p>教育活動も重要活動として、初期医師臨床研修、医学部地域医療臨床実習、看護学部フィールド実習等様々なレベルにおいて多様な地域医療人育成支援に取り組んでいます。</p>	Ⅱ	11	10

市町村	医療機関名	R 5		R 6	要望理由	派遣方針 (優先順位)	常勤医数 (10月1日時点)	
		要望 ①	派遣	要望 ②			R4	R5
川本町	社会医療法人 仁寿会 加藤病院 (81床)	前ページからの続き			<p>1. 巡回診療等による地域住民の医療確保に関すること 平成26年10月より、ヘルスプロモーションカー（小型ドクターカー）「ざいたくん」による川本町の無医地区3地区へ巡回診療を行っています。 （川本町1地区：馬野原地区は患者受診実績がなく巡回診療休止中）</p> <p>2. へき地診療所等への医師及び看護師等の派遣（へき地診療所の医師等の休暇時等における代替医師等の派遣（継続的な医師派遣も含む）を含む。）並びに技術指導、援助に関すること 半世紀以上にわたり、美郷町立君谷診療所への管理医師、看護師、事務職員の派遣を通じて無医地区での診療支援を行なっています。</p> <p>3. 派遣医師等の確保に関すること 社会医療法人仁寿会の医師は、本年10月現在常勤7名（男性6名、女性1名）、非常勤4名（男性医師2名は3日/週、1名は4日/週、女性医師1名は3日/週の勤務です。） 加藤病院では外来診療、地域包括ケア病床及び医療療養病床診療、居宅における訪問診療、無医地区への巡回診療、また、介護老人保健施設仁寿苑の診療、診療所2カ所の外来診療を行っています。更に大田市立祖式診療所の指定管理を法人として受託しています。大田市立病院、石東病院への専門外来支援、民間老人保健施設2カ所、民間特別養護老人保健施設1カ所の代診診療への医師派遣、荘内診療所配置医師としての診療も行っています。また、JAの健診での医師応援体制を求められており、常勤医師の高齢化、また、働き方改革を進める上で、これ以上の派遣機能を担うには、医師の確保が喫緊の課題です。</p> <p>4. 地域の医療従事者に対する研修及び研究施設の提供に関すること 地域医療実習初期臨床研修医は新型コロナウイルス感染症パンデミックの影響により令和4年度は4名のみ受け入れとなりました。これからの地域において、必要な総合医を育成するために多職種連携によるチーム医療を学ぶプログラムの提供や、法人内に仁寿会メディカルスタッフスキルアップセンターを新たに設置しています。ここでは、法人内外の大田圏域の医療介護関連専門職が、従事する地域に居ながら専門的な研修を受ける場を提供し、地域医療介護人の成長を支援しています。地域において、生涯にわたり学び働き続ける環境・体制構築に積極的に取り組んでいます。 また、東京都東邦大学医学生、島根大学医学生、広島国際大学薬学生・管理栄養学生、島根県立大学看護学生・管理栄養学生との医薬看栄養専門職連携学生教育プログラムによる4専門職学生合同臨床実習や、リハビリテーション専門学校学生など将来の地域医療人の育成支援として実習指導など教育活動も行っています。今後は、広島国際大学IPE（専門職連携教育）プログラムと連携予定（新型コロナウイルス感染症パンデミックの影響のため延期）です。 また、島根大学医学部および島根県立大学看護学科、また企業との共同による認知機能に関する研究や島根県ブランド品の開発あるいは販路拡大につながるなどの研究にも積極的に参加し、国内はもとより海外においても研究成果を発表しています。</p>			

市町村	医療機関名	R 5		R 6	要望理由	派遣方針 (優先順位)	常勤医数 (10月1日時点)	
		要望 ①	派遣	要望 ②			R4	R5
川本町	社会医療法人 仁寿会 加藤病院 (81床)	前ページからの続き			<p>5. 遠隔医療等の各種診療支援に関すること  遠隔医療を活用したDoctor to Doctorの診療支援では、巡回診療の現場やへき地診療所あるいは法人運営の診療所と加藤病院との間で情報端末を用い行うことが可能です。また、Doctor to Patient with Nurse やwith Therapist など看護サービスやリハビリテーションサービスの現場活動を支援する活動も適宜行っています。これらは、25年度から開始された島根県在宅医療介護連携推進事業の採択を受け、多職種連携による包括ケアシステムの構築を27年度まで行ってきた成果でもあります。28年度からは、邑智郡歯科医師会の協力を得て、邑智郡食事栄養支援協議会を発足し、また、29年度からは、しまね型医療提供体制構築事業を県より受託し、圏域の医療介護提供体制の課題抽出と遠隔医療を活用した解決に向け取り組んでいます。さらに平成30年度から医療介護総合確保基金による病床機能分化に向けた医療連携推進コーディネーター事業を邑智郡医師会より受託しています。令和4年度からは、新たに美郷町とオンライン診療実証事業として「オンライン診療美郷町（中山間地域）モデル」事業を開始し、マルチタスク車両（巡回・往診診療車両）や地域の公民館などを活用したDoctor to Patient with Nurse 等による診療支援体制の構築をすすめます。</p> <p>6. 地域の医療機関との連携による「ブロック制（拠点となる病院と近隣の診療所等では病院医師が専門診療を行い、学会や研修会出席時等における代診を相互に行う医師の相互交流システム）」等の推進に関すること  診療所の医師が学会等により不在の場合、在宅等での看取りに対応するための患者情報を共有し、在宅看取りを行うことができるよう体制を構築しています。また、様々な事由による代診医派遣も可能です。</p> <p>7. その他市町村が地域における医療確保のために実施する事業に対する協力に関すること  川本町、美郷町、大田市におけるへき地保健医療対策に加え、新型コロナウイルス感染症感染対策（ワクチン接種事業含む）等保健医療に関する各種会議への医師派遣、介護保険認定審査会、地域ケア会議等への派遣等を継続して実施しています。県立・町立学校の学校保健医として町内の保育園、小学校、中学校、県立中央高校の園児・児童・生徒の健康管理を行い、また、産業保健医として県立高校、地元企業、島根県警川本警察署を含め郡内7つの事業所の労働者の安全衛生管理を行い、地域衛生水準の向上に寄与するとともに、警察嘱託医として管轄内の遺体検案業務等警察行政への医療支援にも貢献しております。  産業医）島根県警川本署、島根県立中央高校、川本町役場、川本福祉会、社会福祉法人吾郷会大和サイト（ハートランド双葉園ほか）、JA島根おおち、株）ワイテック、邑智郡総合事務組合</p> <p>以上のように多岐にわたって社会の公器としての公益的な診療・健康管理・社会活動を行う中で公益的な活動へのさらなる貢献要請が、近年特に増加しているという現状があります。慢性的な医師不足という状況に変わりはありません。</p>			

市町村	医療機関名	R 5		R 6	要望理由	派遣方針 (優先順位)	常勤医数 (10月1日時点)	
		要望 ①	派遣	要望 ②			R4	R5
川本町	社会医療法人 仁寿会 加藤病院 (81床)	前ページからの続き			<p>非常勤医師の現状) — 派遣受け入れ医師数昨年度比減少</p> <p>加藤病院は、島根大学医学部付属病院から多くの診療科にわたる非常勤医師を臨床指導医として派遣していただいております。地域において必要な専門性の高い医療サービスを提供することできる環境となっています。しかし、医療勤務環境改善、医師の働き方改革の推進等ご存知のように、大学からの医師の派遣においては、さらなる困難な状況が依然として続き、今後はさらに悪化することも懸念されています。その結果、加藤病院常勤医師の上記医療に関する活動を継続するためには、大学から派遣していただいている現在以上の応援体制の継続に加え、県からの常勤医師の派遣が不可欠であると判断しています。</p> <p>8. 医師派遣の要望</p> <p>島根県のホームページには、地域医療拠点病院の目的として「へき地診療所への代診医等の派遣、医療機関従事者に対する研修、遠隔診療支援等の診療支援事業が実施可能な病院を、概ね二次医療圏単位で地域医療拠点病院として指定し、地域医療支援機構の指導・調整のもとに各種事業を行い、地域における住民の医療を確保することを目的とする。」ことが述べられています。また、地域医療拠点病院の事業内容としては、①巡回診療による地域医療の確保②診療所等への医療従事者の派遣（代診医等派遣含む）並びに技術的指導・援助③派遣医師等の確保④医療従事者に対する研修及び研究施設の提供⑤遠隔医療等の各種診療支援⑥地域の医療機関との連携による地域医療支援ブロック制等の推進⑦その他、市町村が行う地域医療確保への協力と明記されています。この指定事業目的の事業項目について、加藤病院は全て対応しています。</p> <p>このことを踏まえ、公益性の高い医療サービスについては、今まで公立病院が中心的でありましたが、私たちは、地域に必要な医療の提供を担う島根県が地域医療拠点病院として指定している民間医療機関、また、公益性の高い医療法人として認定した社会医療法人が地域の医療計画へ参画、公益性の高い医療を安定・継続的に提供し、良質かつ適切な医療を提供する体制を図ることが必要と考え、現に十二分にその機能を発揮しています。従いまして、私たちは、地域医療拠点病院として、持続可能性を担保しつつ地域における役割を果たすために、県からの医師派遣を強く要望いたします。公益性の高い法人として、地域の不採算な医療事業にも積極的に取り組んでいる社会の公器たる社会医療法人への医師派遣をぜひともお願い申し上げます。このことを通じ、医療分野における官民の人材交流が本格化することを強く願っております。多分野多部門横断的な活動がこの島根の地域包括ケアシステムの継続的な発展には必要であり、その鍵となるのが官民の人材交流です。有為な人材育成に資する方策としてぜひ実現していただきたく存じます。</p> <p>以上の理由により、医師の派遣を是非よろしくお願いいたします。</p>			

市町村	医療機関名	R 5		R 6	要望理由	派遣方針 (優先順位)	常勤医数 (10月1日時点)	
		要望 ①	派遣	要望 ②			R4	R5
邑南町	公立邑智病院 (98床)	2	2	3	<p>公立邑智病院は邑智郡内唯一の救急告示急性期病院として、邑智郡に不可欠の社会インフラとなっています。高度医療、救命救急医療などを除く、急性期医療の8割を地域内完結することを目標に、各診療科が「相互支援」「相互指導」のもと、できるだけ専門分野にとらわれない診療を行っております。また、高度急性期病院から診療所・在宅までを繋ぐ中間的な医療機関として、邑智郡地域連携推進協議会の事務局で郡内84機関の会議を主催する等、病病連携や病診連携、介護福祉施設との連携強化を図っております。</p> <p>当院の内科は平成26年4月から総合診療科と広告し、プライマリケアから上部・下部消化管の内視鏡検査をはじめ、透析管理など幅広い診療や保健予防活動の分野においても重要な位置づけとなっており、年々需要が増しているところです。令和3年度からは、外科医が1名減ったことに伴い、外科外来を総合診療科医師が週1回担当するなど、小外科診療も守備範囲となっております。</p> <p>診療所の支援については、国保矢上診療所の宮本医師が令和2年度から当院で週1回内視鏡検査を行っており、その代診として当院医師が矢上診療所へ診療に出かけています。宮本医師が不在時（休暇、出張）にもスポット派遣を行うなど診療所業務の代診を担っており、今年度からは、美郷町国民健康保険直営大和診療所へもスポット派遣を行っているところです。また、令和6年9月には邑南町市木の上田医院が閉院される予定であり、当院が診療支援へ出かけていく調整を、島根県、県央保健所及び邑南町と行っているところです。2040年問題として医療従事者の担い手不足がありますが、邑智郡内診療所の業務継続が困難になる場合は、郡立病院として積極的に支援を行って参りたいと考えています。よって、総合診療医師が通常診療、代診、研修派遣とフレキシブルに働けるよう、6名の総合医を確保する目標を立てていることから、昨年度要望数から1名増を希望します。</p> <p>教育体制としては、98床の急性期及び地域包括ケア病棟を備えた、地域で唯一の急性期救急病院であることから、幅広い疾患を経験することができ、総合診療医が活躍できる地域であると考えます。更に、内視鏡業務においては、地域で開業されている三上医師の支援・指導も受けており、専門医の技術を学ぶことができます。</p> <p>また、内科系総合医のほか、小児科、産婦人科、整形外科、泌尿器科、麻酔科の医師が常勤で勤務しているため、常にコンサルティングできる環境であることも当院の魅力の1つだと捉えています。</p> <p>更に今年度からは、常勤医の助け合いにより、月2回程度の院外研修（内視鏡・救命救急）にも派遣することができています。</p> <p>島根大学医学部附属病院、島根県立中央病院等の島根県内の基幹病院及び東京医科歯科大学医学部附属病院の総合診療専門プログラム、内科専門プログラムへの協力施設であり、都市部の大学からも期待される教育施設としての負託にこたえるべく努力する所存であります。</p> <p>現在の運営状況として、許可病床98床の令和4年度病床稼働率は89.8%、うち平成26年10月から届け出ている地域包括ケア病床41床の病床稼働率は98.0%と高稼働となりました。</p> <p>【令和4年度データ】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・総合診療科外来患者数 17,925人</li> <li>・救急受け入れ患者数 3,519人（うち救急車815人）</li> <li>・内視鏡検査1,192件 (内ポリープ切除術件数 99件、ERCP 19件、ESD 5件、PTGBD 0件)</li> </ul> <p>以上のことから、自治体病院として地域住民の負託に応える医療機能を永続するために、総合診療外来2診、外科外来、入院管理、内視鏡検査、透析管理、2次救急、当直、代診派遣の体制を継続するには、最低6名の内科系総合医が不可欠であると考えており、うち3名の医師派遣を要望します。</p>	I	9	11

市町村	医療機関名	R 5		R 6	要望理由	派遣方針 (優先順位)	常勤医数 (10月1日時点)	
		要望 ①	派遣	要望 ②			R4	R5
		江津市	島根県済生会 江津総合病院 (280床)	3			0	3
江津市	西部島根医療 福祉センター (112床)	1	0	1	<p>1) センターの概要 当センターは島根県西部地域の江津市に位置し、病床数112床、外来診療科15科を標榜し島根県の西部圏域の地域医療を支える役割を担っている。 当センターの主な基礎データは以下となっている。</p> <p>○標榜科 整形外科、リウマチ科、リハビリテーション科、小児科、内科、循環器内科 消化器内科、神経内科、糖尿病内科、外科、小児外科、耳鼻咽喉科、皮膚科、 小児脳神経外科、歯科口腔外科</p> <p>○患者数（令和4年度実績）  ・外来1日平均患者数 97.3人（再掲 内科系1日平均外来患者数 22.8人）  ・入院1日平均患者数 98.6人</p> <p>○医師数（令和5年10月1日現在）  ・常勤医師 6名（再掲 内科系0名）  ・非常勤医師 常勤換算数3.4名（再掲 内科系0.86名）</p> <p>○医師派遣事業（令和4年度実績）  ・乳児健診等 6市町 年間44回実施</p>	Ⅱ	5	5

市町村	医療機関名	R 5		R 6	要望理由	派遣方針 (優先順位)	常勤医数 (10月1日時点)	
		要望 ①	派遣	要望 ②			R4	R5
江津市	西部島根医療 福祉センター (112床)	前ページからの続き			<p>2) 現在の問題点</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>●常勤内科医不在の問題 患者数1日平均98人の入院部門については、医療機関であると同時に障害児者施設としての機能も有しているため、呼吸器管理や吸引吸入が必要な感染リスクの高い方など「重度重複障害」を持つ超重症児者・準超重症児者が多く、感染症や呼吸器疾患の対応を現在小児科・整形外科医師が行っている。 また、高齢化による内科系疾患や悪性腫瘍のリスクが年々増加してきているが、平成28年8月に常勤内科医の退職後、内科系の常勤医師の不在が続いているため、疾患によっては他医療機関へ依頼せざるを得ない場合もある。 外来部門では、非常勤医師により外来診療を行っているが、曜日によっては医師不在のため、必要な医療が提供できていない状況にある。市町依頼の健診や予防接種も出来る限り対応しているが、通常の診療との兼務であり、医師個々の負担は大きい。</li> <li>●医師の受け持ち患者数について 入院診療は、常勤内科系医師不在の状況の中で、派遣常勤小児科医1名（ローテーション）と、常勤小児科医1名の計2名で外来診察や健診事業を行いながら、重症児者の入院患者98名を受け持ち対応している状況である。</li> <li>●小児科の予約待ちの状況 小児科は発達障害の診療を主に行っており、学校や関係機関からの紹介も多く、予約が5ヶ月待ちの状況となっている。現在は常勤小児科医が4名在籍しているが、うち1名は育児休業取得中であり、他2名は多数の入院患者の対応をしている状況である。そのため、他医療機関への患者紹介を行うとともに、市町健診業務の見直しを行い、常勤医と非常勤医による診療体制を確保できるよう対応しているが、問題の解消には至っていない状況である。 新患の件数も近年では継続して年間160名を超えており、依然として小児科の予約待ちの課題については、改善の見込みがない状況にある。</li> <li>●医師派遣事業 当センターは、乳幼児の小児神経疾患及び整形外科疾患の早期発見を目的とし、乳児健診を始めとする医師派遣事業を島根県西部圏域で実施している。令和4年度から浜田市からの要望により同市への医師派遣を開始したが、小児科の予約待ちの状況を緩和するため、医師派遣事業の見直しについても必要な状況である。</li> <li>●その他 内科系医師不在により併設している障害者支援施設の嘱託医の業務、当直業務等を常勤の整形外科医及び小児科医が行っており、医師個々の負担はさらに高まっている状況にある。また、当直業務を常勤医師4名と非常勤医師で対応しており、常勤医師にかかる負担は相当なものである。 そのほか、令和5年度末には期限付医師2名の医師派遣の状況が不透明であり、場合によっては常勤医師1名で入院患者を対応せざるを得ない可能性もある。</li> </ul> <p>入所利用者の約9割が成人の障害者であり、循環器、消化器、運動器、てんかん、痙縮等多岐に渡る診療が必要であるため、内科医、特に総合診療医が必要である。 今回派遣をいただいた場合、地域における外来診療や入院の重症児者への総合的な診療、併設施設の嘱託医、当直業務に対応していただくことにより、小児科の予約待ちの問題の緩和、安定した地域医療の提供、当センターの果たすべき役割である障害児者への充実した専門医療の提供、そして乳児健診を始めとする医師派遣事業の充実した提供が可能となる。</p>			

市町村	医療機関名	R 5		R 6	要望理由	派遣方針 (優先順位)	常勤医数 (10月1日時点)																					
		要望 ①	派遣	要望 ②			R4	R5																				
浜田市	国民健康保険 診療所連合体 (波佐・あさひ・ 弥栄・大麻)	1	1	1	<p>令和4年度から義務年限内自治医科大学卒業医師を派遣していただいたことについて、厚くお礼申し上げます。</p> <p>浜田市国保診療所連合体は、中山間地域の医療を確保するため、4つの診療所（大麻診療所、波佐診療所、あさひ診療所、弥栄診療所）を運営しています。</p> <p>令和3年度までは5名の医師（常勤2名、任期付職員2名、県派遣1名）で診療にあたっておりましたが、定年退職による常勤からパートへの変更に伴う勤務時間減少及び任期付き医師の急な退職により令和4年度から現在まで4名（常勤1名、任期付職員1名、県派遣1名、パート1名）となり、各所へ代診医派遣をお願いし、現状では、休診日や休診時間を作らないよう努めておりますが、地域住民からも地域医療に対する憂慮の声が上がっているところです。また、研修医への指導助言も行うなど医師の負担も増加しています。</p> <p>中山間地域の医療の確保はもちろんのこと、当市の保健・医療・福祉の課題解消に向けた各種行政施策への参画や、将来の地域医療を担う人材育成など、この連合体の果たすべき役割は大変重要であります。働き方改革が進む中、医師への負担増が懸念され、早期の医師確保が喫緊の課題となっています。</p> <p>そのことから、新たな人材を育成していくために、総合診療医育成の見直しを図るとともに専攻医の招へいに努めているところです。</p> <p>医師を派遣していただくことで、全国的にも先進的な取組であるグループ診療の良さを生かすことが出来ればさらなる人材育成にもつながり、派遣いただいた医師の技術向上にも寄与できるものと考えますので、派遣継続について強く要望いたします。</p> <p>&lt;施設別一日当たりの診療件数及び診療日数（令和4年度）&gt;</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>施設名</th> <th>診療件数(延べ) ①</th> <th>診療件数 ①÷②</th> <th>診療日数②</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>国民健康保険大麻診療所</td> <td>195件</td> <td>5.9件</td> <td>33日</td> </tr> <tr> <td>国民健康保険波佐診療所</td> <td>3,346件</td> <td>12.6件</td> <td>265日</td> </tr> <tr> <td>国民健康保険あさひ診療所</td> <td>5,482件</td> <td>20.8件</td> <td>264日</td> </tr> <tr> <td>国民健康保険弥栄診療所</td> <td>6,336件</td> <td>23.8件</td> <td>266日</td> </tr> </tbody> </table> <p>※診療日数は半日診療も1日としてカウントしている</p>	施設名	診療件数(延べ) ①	診療件数 ①÷②	診療日数②	国民健康保険大麻診療所	195件	5.9件	33日	国民健康保険波佐診療所	3,346件	12.6件	265日	国民健康保険あさひ診療所	5,482件	20.8件	264日	国民健康保険弥栄診療所	6,336件	23.8件	266日	I	1	1
施設名	診療件数(延べ) ①	診療件数 ①÷②	診療日数②																									
国民健康保険大麻診療所	195件	5.9件	33日																									
国民健康保険波佐診療所	3,346件	12.6件	265日																									
国民健康保険あさひ診療所	5,482件	20.8件	264日																									
国民健康保険弥栄診療所	6,336件	23.8件	266日																									

市町村	医療機関名	R 5		R 6	要望理由	派遣方針 (優先順位)	常勤医数 (10月1日時点)	
		要望 ①	派遣	要望 ②			R4	R5
益田市	益田地域医療センター 医師会病院 (253床)	3	0	3	<p>益田地域医療センター医師会病院は、益田圏域の急性期から回復期、慢性期、在宅医療支援までの幅広い機能を有し、地域医療拠点病院として、長年、益田市医師会員の協力も得ながら、圏域内の無医地区への巡回診療（令和4年度実績 計210日）を継続し、現在、計6カ所の無医地区への巡回診療を実施しています。また、応援診療として、津和野共存病院へ週一回の整形外科医の派遣（令和4年度実績 計47日）や、六日市病院への宿直応援（令和4年度実績 計13日）、国保知夫診療所への宿日直代診の派遣（令和4年度実績 計45日）等を行っており、その他、平成17年「益田市国民健康保険診療施設美都診療所」開設と同時に、同診療所の指定管理を法人として受託し、以後、地域医療を維持するため不可欠な機能を継続して担っています。</p> <p>また、当院は医師会立病院の特性を生かし、地域のかかりつけ医との強固な連携の元、地域医療支援病院（令和4年度実績 紹介率74.3%・逆紹介率88.0%）として、また、圏域独自の地域包括ケアシステム推進においても在宅医療後方支援病院（登録患者数59名／令和5年9月現在）として、圏域の医療提供体制に重要かつ不可欠な役割を果たしていると自負しています。</p> <p>一方で、当院の医師数は最盛期（平成24年）の19名より年々減少し、現在13名の常勤医でこの病院機能を支えています。常勤医の高齢化も顕著であり平均年齢は55.0歳、13名のうち6名は60歳を超え、宿日直ができる医師も6名しかおらず、非常勤医師や島根大学からの派遣に頼らざるを得ない状況です。このような状況下において、独自の医師確保対策として平成30年より医師会員の協力を得て開始した、へき地・離島で活躍を目指す若手医師の育成プロジェクト「親父の背中プログラム」によって、辛うじて毎年1～2名の医師の確保はできていますが、勤務年数を限定した循環型プログラムのため非常に不安定な状況であることには変わりありません。</p> <p>現在、令和5年度末で親父の背中プログラムの医師1名の退職が決まっています。島根大学医局をはじめとした関連大学への要請をはじめとして、人材コンサルティング会社の活用など不断の努力を重ねておりますが、現時点で確保につながっていないのが実情であり、このまま医師確保が叶わなければこの圏域の医療崩壊にもつながりかねません。</p> <p>また、当法人が指定管理を受託する国保美都診療所の勤務医の年齢も68歳を迎え、益田市匹見町の国保匹見道川診療所・澄川診療所の運営を行う匹見町唯一の開業医も74歳を迎えているため、指定管理での運営を現在調整中です。今後も地域の医療提供体制を堅持するため、当院への医師派遣についてご検討賜りますようお願い申し上げます。</p> <p>令和4年度 外来患者延べ数 23,503人  （うち内科 2,716人）  入院患者延べ数 82,585人  （うち一般病棟および地域包括ケア病棟の内科入院患者延べ数 11,797人）  内視鏡検査件数（上部252件、下部92件）</p>	Ⅱ	12	12

市町村	医療機関名	R 5		R 6	要望理由	派遣方針 (優先順位)	常勤医数 (10月1日時点)	
		要望 ①	派遣	要望 ②			R4	R5
津和野町	津和野 共存病院 (49床)	3	3	2	<p>公立医療機関で地域医療拠点病院に認可された津和野共存病院は、町内で唯一の入院施設を有する病院であり、地域包括ケア病床36床と一般病床13床の合計49床を有しています。</p> <p>在宅医療（介護施設も含む）の受け皿としての急性期医療（在宅療養者の急増への対応）や、機能回復および維持のための亜急性期～慢性期医療・リハビリテーション機能を携えています。</p> <p>また、同一施設内に介護老人保健施設、津和野町の機関（医療対策課、地域包括支援センター）を併設し、地域の医療・介護を支える拠点となっています。</p> <p>医師不足の為、平成18年12月に救急告示病院を取り下げましたが、受け入れ可能な日中の救急患者（5人/日程度）については現在でも対応しています。</p> <p>津和野共存病院は、隣県を含めた中山間地域にとっても必要とされており、外来患者約80人/日、入院患者約42人/日の診療、日中の救急患者の受け入れ、通院が困難な在宅療養患者（30人/月）及び特別養護老人ホーム（100人/月）への訪問診療、無医地区への巡回診療（24人/月）を行い、訪問看護（120人/月）が24時間体制で在宅療養を支えています、訪問リハビリテーション（70人/月）では自宅での生活様式に合わせてストレッチ・転倒防止体操・バランストレーニング等を実施しています。又、町内のほか益田市、吉賀町の事業所依頼も含め健康診断（年間1600件）、予防接種、町の健康相談事業や保健事業への協力などを行い、地域包括ケアの推進に取り組んでいます。</p> <p>また、日原診療所は、主に津和野町及び隣接する吉賀町、益田市の住民に対応し、非常勤医師4名（主に津和野共存病院の常勤医師派遣）による5日/週外来診療（患者数30名/日）訪問診療（16名/登録）予防接種を実施しています。</p> <p>平成30年10月以降、日原地域の開業医が閉院し町民の不安が増す中、医療を守り町民が安心して生活できる環境を整えるために、津和野町施設を診療所として増改築し令和4年3月に移転、新たに簡易検査機器、レントゲン装置を設置し、地域の医療と住民の健康維持を担う重要な医療機関となっています。</p> <p>現在7.5名（0.5名は老健兼務のため）の常勤医師体制ですが、1名は68歳を越え入院・外来等一般診療を行わず専ら検査と読影を担う放射線科医師です。1名は64歳で臨床経験に乏しく外来・入院対応は困難で、老健を兼務し健診や予防接種、夜間外来のない週3回の当直を行っています。1名は65歳で体調を崩し回復後ですが、継続治療が必要であり週4日勤務としています。</p> <p>実質的に外来・入院・土日休日直は若手医師の4人で対応する状況にありますが、そのうち3人は幼い子供を育てていることもあり、当直回数の軽減に努めるとともに過度の負担がかからないように益田赤十字病院や島根大学医学部付属病院に非常勤医師の応援を依頼し、なんとか診療体制を維持しています。しかしながら、令和6年3月末には若手医師1名の退職が決まっております。</p> <p>津和野共存病院は地域医療拠点病院の指定を令和4年3月に認定され、町内無医地区への対応等も令和4年7月より月2回の巡回診療（患者12人/日）を実施し（令和5年10月からは月4回）、津和野町の医療をなんとか守るとともに、県内総合診療医の育成の一助となるように、研修医の地域医療実習や学生の実習を積極的に受け入れており、これらを継続し併せて町内無医地区への対応等を行うためには、少なくとも現在の若手医師4名の体制を維持していくことが必須であります。また、津和野独自の奨学金制度を設けるとともに地域枠推薦医師や僅かでも望みのある若手医師を中心に働きかけを行っておりますが、来年度には叶わないのが実情であります。</p> <p>当院の存在・機能は、この圏域にとってなくてはならない医療機関となっており、現在3名の医師を派遣していただいておりますが、総合診療医1名は確保の目途がたつたため、義務年限内の医師2名の若手医師派遣を強く要望する次第であります。</p>	I	7	8

市町村	医療機関名	R 5		R 6	要望理由	派遣方針 (優先順位)	常勤医数 (10月1日時点)	
		要望 ①	派遣	要望 ②			R4	R5
吉賀町	【廃止予定】 社会医療法人 石州会 六日市病院 (99床)	1	0	-	-	Ⅱ	5	4
吉賀町	【新設予定】 よしか病院 (50床)	-	-	2	<p>令和6年4月1日開設予定である「よしか病院」は、社会医療法人石州会が運営中の「六日市病院」の後を引き継ぎ、吉賀町内唯一の入院機能を有する公立医療機関として、地域包括ケア病床30床と一般病床20床の合計50床の病床数を予定しています。また、町内の在宅医療（介護施設も含む）の受け皿として、急性期医療（在宅療養者の急増への対応）や、機能回復および維持のための亜急性期～慢性期医療・リハビリテーション機能を携えることとしています。</p> <p>外来診療としては、総合診療科を中心とした医療を行うこととし、医療需要の高い、整形外科、眼科、皮膚科、耳鼻咽喉科、リハビリテーション科、歯科口腔外科についても検討しています。</p> <p>また、同一施設内には介護老人保健施設「よしか苑」、町の機関である吉賀町役場医療対策課を併設する予定としており、地域の医療・介護を支える拠点となります。</p> <p>よしか病院は、益田・鹿足圏域はもちろん、隣接する岩国市も含めた中山間地域にとっても必要とされると考えており、外来患者約100人/日、入院患者約45人/日の診療、救急告示病院としての役割についても予定しています。更に、通院が困難な在宅療養患者（30人/月）への訪問診療、無医地区への巡回診療（24人/月）などを行うことも予定しております。併せて、訪問看護（140人/月）で在宅療養を支えるとともに、訪問・通所リハビリテーション（300人/月）で身体機能の維持・向上をさせることも実施する予定であります。</p> <p>また、町内を中心として圏域の事業所依頼も含めた健康診断、予防接種、町健康相談事業や保健事業への協力などを行い、地域包括ケアの推進に取り組むことも予定しております。</p> <p>近年の町内の状況は、少子高齢化による人口減少、町内開業医の高齢化が進むとともに、昭和56年の開設から42年間運営している「六日市病院」の常勤医師不足や数年間続く経営難により、地域医療に対する町民の不安が増大しています。</p> <p>そのため、地域医療の灯を消さない、地域のニーズ・特性に応じた医療・介護サービス提供体制の確立、地域医療を守り町民が安心して健康で生活できる環境を整えるため、令和2年2月より指定管理者制度の活用による公設民営化に向けた検討を開始し、令和5年4月には町が主体となって公設民営による病院運営の受け皿となる「医療法人カタクリ会」を設立し、「よしか病院」の指定管理者として着実に準備を進めているところです。</p> <p>このような状況下で、新規の開設となる「よしか病院」の常勤医師としては、六日市病院からの継続医師1名（60歳代）、他病院からの地域枠による医師2名（30歳代）の計3名については現段階で予定されているものの、新規開設という事情からこれ以上の医師確保は極めて困難であり、上記の診療体制を実施していくうえでの常勤医師数が確実に不足する見込みであります。</p> <p>特に救急医療体制の面では、一次救急への対応や軽症・中等症の患者に対する電話対応を含め、初期段階の救急患者や比較的軽度の症状に対応するための体制も必要になると考えております。</p> <p>このように、令和6年4月に新規開設予定の「よしか病院」の存在は、町内唯一の入院機能を有する病院として、医療の灯を消さないための重要な役割を担うとともに、医療・介護の連携、機能分担を視野に入れた益田・鹿足圏域にとってなくてはならない医療機関であります。是非とも、新規で2名の医師派遣を強く要望する次第であります。</p>	Ⅰ	-	-

市町村	医療機関名	R 5		R 6	要望理由	派遣方針 (優先順位)	常勤医数 (10月1日時点)	
		要望 ①	派遣	要望 ②			R4	R5
隠岐の島町	隠岐広域連合立 隠岐病院 (115床)	4	4	5	<p>当院は、隠岐医療圏の地域医療拠点病院として、限られたマンパワーの中で、島民が安心して暮らしていけるために日々取り組んでいます。離島という厳しい地理的条件、超高齢化の進行する中、地域医療における当院の果たす役割は益々高まっており、中でも自治医科大学出身の県派遣医師がいなければ離島医療を守ることができない状況にあります。</p> <p>総合診療科においては、新型コロナウイルス感染症の影響により減少していた患者数が令和3年度以降、外来患者数はコロナ禍前より増え、入院患者も元に戻りつつありますが、患者様態が治療に介助を必要とする患者が増えています。今年度も外来患者数（130名/日超）、入院患者数（40名/日超）と、特に外来患者数は同規模病院と比較して倍近く、14時過ぎまで診療にかかることもあり、その後に各種検査（令和4年度内視鏡検査（上部1,487件、下部414件）、入院対応とスタッフも含め、勤務時間超過となることも多く、更に救急外来対応（救急車受入件数506件）や、宿日直対応（月4～5回、休日及び時間外患者数4,122人）など、多忙を極めています。そのような状況でも、常勤医不在診療科（耳鼻科、泌尿器科、皮膚科）の専門医の診療を必要とする前の初診も受けるとともに、医療提供が必要な在宅医療も推進するなど、常に先頭に立って対応していますが、離島という地理的環境、限られた人数の中での診療は、常に緊張感があり精神的、身体的負担も大きくなっています。</p> <p>一方で令和6年度から病診一元化がスタートし、町立診療所（3か所）を隠岐広域連合立として一体化を図る中、特に地域包括ケアシステムの要となる総合診療医の連携強化が重要となりますが、都万診療所医師が令和6年3月末で退職となります。地域には開業医もいなく、診療所は長年にわたり地域で安心して暮らしてきた中で必要不可欠であり、今後も住民にとって存続が切なる要望であり、常勤医確保に取り組んでいますが、厳しい状況にあります。</p> <p>病診一元化により、当院所属の医師が診療所に勤務することで、地域住民の安心の医療、通院等の負担軽減もでき、相互診療を進めることで患者情報を共有し、当院では専門性の発揮、診療所ではかかりつけ医として、地域医療のスキルアップに繋がります。県の厳しい状況は承知しておりますが、地域医療構想において病床数は現状の通りであること、患者状況、将来推計などから総合診療科体制として現状の4人派遣の継続、及び都万診療所での診療として、新たに1人増の5人派遣を是非ともお願いするものです。</p> <p>併せて、医師の働き方改革として、診療看護師による診療補助、特定看護師の育成、医療クランクの充実を図るとともに、院内保育、病児保育の無償化やベビーシッターの賠償保険の負担など働きやすい環境も整えてまいりますので、重ねて1人増をお願いいたします。</p>	I	19	22
隠岐の島町	国民健康保険 都万診療所	-	-	隠岐病院から要望	<p>当診療所は、隠岐の島町都万地区（旧都万村）の診療所として限られたマンパワーの中で、安心の医療を提供できるように取り組んでいる中、令和6年度から病診一元化がスタートします。町立診療所が隠岐広域連合立診療所となり、離島という地理的環境、限られた医療資源の中、一体化により持続可能な医療提供体制を図るものです。</p> <p>そのような状況の中、令和6年3月末で常勤医師が退職となることから、医師招聘に注力していますが、非常に厳しい状況にあります。地域医療を守り、住民の安心につなげるために診療所はなくてはならない唯一の要ですので、支援をお願いするものです。</p> <p>また、地域包括ケアシステムの要となるのが総合診療医であり、隠岐病院においては、その重要性を認識し総合診療科を立ち上げました。診療所と病院の医療機能の連携・分化により安心の医療を提供できる体制として、医師が隠岐病院に所属することで病診一元化の最大限の効果を図ることができることから、隠岐病院から派遣要望を提出します。診療所、ひいては離島“隠岐の島町”の医療を守っていくために、是非とも支援をお願いします。</p>	I	1	1

市町村	医療機関名	R 5		R 6	要望理由	派遣方針 (優先順位)	常勤医数 (10月1日時点)	
		要望 ①	派遣	要望 ②			R4	R5
西ノ島町	隠岐広域連合立 島前病院 (44床)	1	1	1	<p>隠岐島前病院は、隠岐島前地域の3島唯一の病院であり、病院勤務医はブロック制により島前各診療所での診療にも従事するなど、地域医療拠点病院として島前地域の医療の中核的な役割を担っている。</p> <p>島前病院への県派遣医師は院長を含めた6名で、前述の通り医師確保が困難な知夫診療所、浦郷診療所、へき地三度診療所への医師配置等を包括的に管理したブロック制で運用している。これらの診療所への恒常的な医師派遣のため、島前病院における常勤人員は県派遣医師の5名で、そのうち義務年限内の医師は1名である。</p> <p>病院の令和4年度の入院患者数は年間延べ人数14,194人で外来患者数は、常勤医の担う内科(13,346人)、小児科(1,309人)、外科(7,280人)で年間延べ人数21,935人である。</p> <p>常設の診療科は内科2診と外科1診であるが、外科を内科医が兼務しており、内科外来では医師1人あたり約29.3人を、また、外科外来では医師1人あたり約26.3人の外来患者を診察している。</p> <p>診察時間は13時頃までと遅く、患者数によっては16時頃まで診察する場合もある。また、病院医師は、消化器・循環器・呼吸器等、内科全般にわたり総合医の役割を担って診療しており、病院・診療所での診療のほか、胃カメラ・エコー等の検査にも従事するなど、少ないマンパワーで多忙を極めている。</p> <p>このほか、隠岐島前病院では在宅医療の支援体制を推進しており、医師の訪問診療等や西ノ島町内の老人福祉施設への往診も行っている。</p> <p>これらのことから、現状の診療体制の確保のため少なくとも地域医療支援会議の派遣医師1名は必要であり、1名の継続を希望する。</p>	I	5	5
海士町	国民健康保険 海士診療所	1	0	1	<p>海士町人口約2,300名。高齢化率40%。海士診療所は、島に1つしかない医療機関で無床診療所です。乳幼児から高齢者まで全ての医療の他、予防まで一挙に担い島に暮らしている人々の命を守っています。</p> <p>現在、海士診療所の医師は、常勤2名です。高齢化により退職後も継続して常勤にて診療していただいて、24時間365日診療を行っています。今後、医療の継続のためには、医師派遣をお願いしたく要望させていただきます。</p>	I	2	2
知夫村	国民健康保険 知夫村診療所	1	0	-	-	I	1	1
合 計		31	14	31				
病院		28	13	29				
診療所		3	1	2				